

立沢里山

平成21年6月7日 第16号

里山新聞

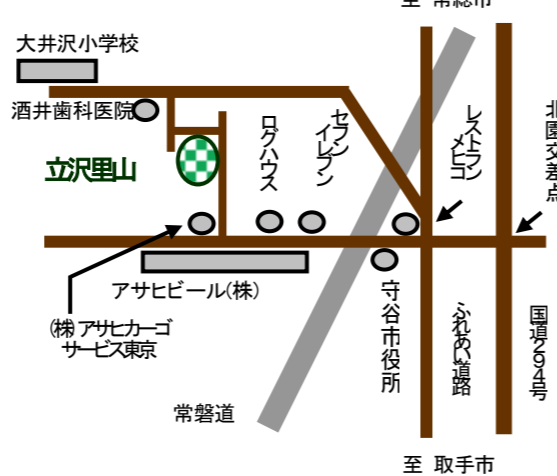
発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
 問い合わせ先：事務担当
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 351）
 立沢里山ホームページ
<http://www.geocities.jp/tatuzawasatoyama/>

ボランティア募集
 もなたも一緒に楽しみましょ！

～目次～

- 1 アサヒビール工場内にホタルピオトープ
- 2 立沢湿地で自然観察会
- 3 里山づくり
- 4 田んぼの準備
- 5 「田んぼの学校」開催：小学校の田植え体験
- 6 竹炭の窯出し

【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします

denen21@hb.tpl.jp

清野



1 アサヒビール工場内にホタルピオトープ

アサヒビール工場辺りは、工業団地として開発される前は湿地と谷津田で、ホタルやメダカもたくさんいて立沢里山と同じような生態系であったと思われます。

そこでアサヒビールでは工場内に昔のようにホタルが舞う景観を再生しようと、職員がピオトープづくりを進めてきました。確か新聞にも職員がピオトープ管理士の資格を取得し、取り組んでいるとの記事が掲載されていました。立沢里山会としても同じ生態系、ご近所ということで協力支援をしてきましたが、この度完成したとのことで連絡をもらいました。4月9日（木）の午後「立沢里山の会」「伊奈ホタルを守る会」と「アサザ基金」が招待されました。アサザ基金には、水源である霞ヶ浦の環境に取り組んでいるということで、アサヒビールが1缶1円をエコ基金を積み立てており、当日代表の飯島さんに手渡されました。

ホタルピオトープはエントランス右側の池傍の一角に整備され、面積は数十㎡くらい、工業用水を使用しているため塩素除去のため「活性炭ろ過装置」をつけ、水路が3本、きれいに植栽や敷き砂利もなされ、かなり熱心に作られたようです。当日は工場長を初め職員が熱心に説明してくれました。

幼虫は立沢里山から採取した卵を育て、餌であるカワナと一緒に放流しました。全体では千個程ですが、この夏飛び立つのは何割くらいか、またここで産卵し定着できるかが課題であり楽しみでもあります。

出席者からは熱心な質問やアドバイスが行われ、実践的な意見交換が行われました。立沢里山から嫁入りしたホタルですので、夏場になって光出した頃にでも、ビールの試飲を兼ねて是非皆で会いに行きましょう。



2 立沢湿地で自然観察会

毎年春と夏の2回、守谷市役所の主催で、五木田先生など「自然友の会」が中心となって自然観察会が行われていますが、今回は立沢湿地周辺で行われました。

4月11日（土）午前9時に市役所駐車場に集合、今回は子供を含めて30名ほどの参加、天気にも恵まれ観察会には絶好の小春日和でした。

立沢里山は昨年から再生事業に着手し、一部の木道を廃止して土手道にルート変更し、工事中でもあり、事故があってはいけないので、里山の案内・PRを兼ねて立ち会うことにしました。

立沢里山にはちょうど一時間くらいで到着し、丸太椅子で折り返しの休憩となりました。

会長から立沢里山活動の成り立ちなどを、その後、パンフレットなどで最近の里山の会の取り組み状況などについて説明しました。

また、昆虫の専門家、石塚先生から立沢には珍しい「ミドリシジミ」がい



ミドリシジ



カワセミ



るとの説明がありました。♂は金緑色に輝き大変すばらしい蝶です。湿地に生えるハンノキを食樹にしており、全国的に湿地が減少しているため一部では準絶滅危惧種に指定されているそうです。

これから梅雨の時期になると緑の葉っぱに止まっているとのこと。探すのは難しそうですが、何方かチャレンジしてみませんか

別名「そよ風の精」ともいわれ、発見すれば立沢里山のシンボルになりそうですね。

池を浚渫して水面が広がったせいでしょうか、参加者から最近立沢里山周辺でフクロウやカワセミがよく目撃されるとのこと。実は私も最近カワセミを目撃し少し小さいですが写真撮影に成功しました。キジの数もかなり増えてきたような気がします。

3 里山づくり

昨年取り掛かった里山再生事業もかなり進展してきました。

土手道も毎日散策などで通る人もいて自然に踏み固められ、ヨシワラの舗装で歩きやすくなり、徐々に遊歩道らしくなってきました。

また土手の盛り土のために掘削した跡が期せずしてせせらぎ水路になってしまいました。夏場の湧水時に干上がる可能性があるために生き物の緊急避難場所として途中には三つの調整池を設置しました。さらに最下流部には落差50cm程度の小さな滝もできました。子供達が自分で考えたのでしょう。新しい池に渡るために近くににあった廃材を活用して橋をかけてありました。

最も大きな変化はほとんど埋没状態だった池の再生です。

昨年重機を入れて浚渫しましたが、さらに人力でヨシの除去、水深が深く危険な箇所の埋め立て、中島や廃止した木道の板を流用してデッキを設置し、小さい子供も水に触れあえるように工夫しました。

スイレン、コウホネ、キシウブやハスなど花のある水生植物を植栽し、道行く人にも楽しんでもらおうと思います。

水が入るとわかりませんが、水流が短絡しないように、ミヨ筋をS字に深くして流れを作っ



ります。今後の池の管理を考えて水位調節ができるように池の出口も改造しました。

水深や植生にも変化をつけたので魚など生き物の多様性が飛躍的に向上することが期待されます。

4 田んぼの準備

4月25日(土)はあいにくの雨で作業中止となりましたが、GW中の5月2日(土)に改めて田んぼの準備作業を行いました。

大井沢小学校の校長先生はじめ御所が丘、松前台の先生も応援に来てくれ、草刈、畦塗、ゴミ拾いなどを行いました。

ところが、田んぼに水を張ったせいかモグラが出てきて土手に何箇所も穴ができ、翌日大量漏水が発生していたために、急きょ9日(土)にも修復作業を行いました。

例年、子供達が田植えした際に大勢の人が集まるために場所によっては原型をとどめないほどに畦道が崩壊してしまい、漏水することもありましたが、今年は里山の会の戦力も向上したので、かなり強固に盛り土しました。また昨年は大雨の度に土手が切れ漏水が頻発したことから配水と水位調整用のパイプも増強し水管理にも万全を期しています。

15日には海老原農業委員会々長が小学校の先生を対象に田植えの事前説明講習会を実施しました。

16日(土)には最終の準備作業として均平とシロカキ作業、大人の田んぼの田植えを実施しました。



5 田植えの実施：「田んぼの学校」開催

5月19日(火) 今年は雨の心配もなく薄曇りがたち田植えとしては絶好の日和となりました。里山の会のメンバーは皆はりきって9時前には集合し、草刈や田植えしやすいように最後の水位調節、歓迎の「田んぼの学校旗」の設置など準備作業を行いました。

9時半頃、最初に大井沢小学校が、続いて松前台、御所が丘小学校と約200名の小学5年生が元気に徒歩で到着です。予定通り10時から開会の挨拶、田植え方法の説明、皆挨拶も元気で何が始まるかと少し緊張した表情です。そしてさっそく田植えの開始です。

ほとんどの子供が初めての様子。なかなか最初の第一歩が踏み出せない子供もいます。おそろおそろ田んぼに入りますが、泥に足をとられて歩くのも大変。

「冷たい!! イヤッ暖かい」「キヤー、気持ち悪い!! イヤッ気持ちいい」と初めての体験なので先入観が次々と覆っていきます。

突然大歓声があがり、振り返ると元気な男の子が勢いあまってひっくり返り、全身泥だらけになって、皆に注目されて直後に大笑い。

その後は皆覚悟を決めて、ワーワー言いながら田植えが始まりました。二列程度植えると皆それなりに慣れてきて楽しくなってきました。

ただ、後ろに下がるのが大変らしく、長クツが脱げてしまったり、尻餅をついたり大変でした。人数が多いので学校ごとに男女が交代で植えましたが、この交代も泥沼を歩くので大変です。今年は先生に事前の説明講習会を実施していたこともあって、全体の流れもスムーズに進行しました。



途中、苗を配りだすと、小さく千切って投げるのが面白らしく、私もやりたいと次々と手があがります。

一時間半ほどで事故もなく田植えは無事終了しました。皆もっとやりたいとの声もありましたが、予定の面積を植えて終了です。上総堀の冷たい井戸水で手足を洗いクラスごとに集合して記念写真を撮りました。

屋前には全員集合して閉会・御礼の挨拶、着替えをすませて皆晴れ晴れとした表情で帰っていきました。

「聞いたことはすぐ忘れる。見たことは思い出す。体験したことは身につく」と言われます。今回の田植えが一人一人にとって素晴らしい経験として記憶に残ったことと思います。

子供たちには、里山での注意事項、学び方、遊び方などを児童向けに「里山のシオリ」として作成し、事前に配布してあるので、これからも週末などに是非遊びに来て、稲の生長を見守り、たくさんの田んぼの生き物と触れ合い遊んでほしいものです。

6 竹炭の窯出し

6月7日(日)午後から自然博物館内の炭窯から3月に火入れした炭の取り出し作業を行いました。待望の成果品とのご対面です。

3月末に火入れした炭窯は火止めし入り口が閉塞したままになっていました。これは炭窯は空けると内部の湿度があがり崩壊する危険性もあるために、窯出しと次回の炭焼きとを連続で行った方が無難との判断によるものです。

おそろおそろ開けてみると、奥のほうに半分くらいしかありません。聞いてみると手前はほとんど燃えてしまい、全体的に縮小するのでそんなものだとのことので安心しました。さっそく、中に入って取り出してみると、かなりの量でした。

また、金属音がして焼き上がりの品質もかなりいいようです。丸材、小枝、ハスの実などもきれいに炭になっていました。今後の加工作業が楽しみです。

七郷小学校の子供達がいれた土器もきれいに焼きあがっているようで、缶の中には包んでいた新聞の文字が読める状態でできあがっていました。

今後、夏祭りにむけて、竹酢液を含めてどのように加工販売するか、皆で考えましょう。

